

7月16日～18日、所属する会派「志」で、視察研修に行きました。まずは、図書館の指定管理者の導入について佐賀県武雄市（たけおし）へ。「もっと多くの方に利用していただきたい」、「365日・年中無休」、「行政でできなければ民間の力で」。樋渡市長のそんな思いから、カルチャー・コンビニエンス・クラブと指定管理提携を実現させ、今や旭山動物園、金沢21世紀美術館と並ぶ施設へと成長しています。開館前から、利用者がオープンを待ち、開館と共に好きな飲み物を飲みながら、読書を楽しむ姿が見られ、単なる観光の目玉ではない、「市民の生活をより豊かにする」図書館が、静かな町並みに自然と溶け込んでいました。

続いて議会改革への取り組みについて佐賀県嬉野市（うれしのし）へ。議会が中心となり、議会基本条例を制定。市民参加を原則に、議会報告会「議員と語ろう会」を開催。ネットやCATVも駆使し、情報公開に努めています。「愚直に、そして確実に、エンドレスに！」議会改革に取り組み、また議会報に関しては、全国町村議会だよりコンクールで嬉野町議会時代に最高2位、以降毎回トップ10入りの実績を持ち、たいへん参考になりました。

最後は定住促進事業について、福岡県筑後市（ちくごし）へ。全国的に人口が減少する中、微増を続けています。転入・転出人数まで細かく調査し、具体的に人口目標を設定。平成28年には5万人を目指しています。「恋の木の命（みこと）」を祭る「恋の木神社」への女性客の参拝が口コミで増えてきたことや、平成28年からは、福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地誘致の成功が功を奏し、結婚して、子どもを生み、育てやすい社会作りに力を入れ、きめ細やかな定住促進行動計画を策定し、職員が全面的に活動しています。



武雄図書館



筑後市の新婚世帯へのフォトフレーム

7月21日（海の日）「中野ちかこを囲む会」を開催し、就任後の活動報告をさせていただきました。ビリーレイプアクミコ・フラスクールのみなさまが、華やかに会を盛り上げてくださいました。



ビリーレイプアクミコ・フラスクールのみなさま

8月1日、淡路島まつりおどり大会初日。市職連に参加しました。前年まで、およそ20年に渡り、島まつり3日間、本部席ほかでアナウンスさせていただきましたが、踊りに参加するのは、子どもの頃以来です。練習も数回参加しましたが、初めての女踊り。ゲタを履いての踊りは、とても難しかったです。



淡路島まつり踊り大会にて

9月4日、9月定例市議会開会。

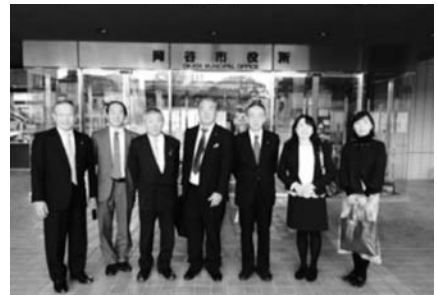
今回も一般質問に立ちました。暮らしやすいまちづくりについて、人が集まる場所づくりについて、下加茂地区の今後についての3問を質問しました。

人口の減少は全国的な問題ですが、定住促進のためには、安心して仕事を得ることが一番です。

最初に、雇用に関して、国や県、市がやっている事業について質問しました。人材育成については、「淡路島はたらくカタチ研究島」などを通じ支援。就労弱者については、淡路障がい者就業・生活支援センター、あわじ特別支援学校、淡路障がい者自立支援協議会などとの連携を通して支援。転入世帯や新規就農者へも助成金を交付し、雇用対策を実施などで対応しているそうです。人が集まるまちづくりについては、新たな施設を作らなくても、既存の施設を再活用できれば…と、アルファピア跡地や、周辺の事などについて質問、27年3月に開幕の「淡路花博2015花みどりフェア」にて活用することのこと。

また、県病跡地の今後については、新しく、福祉ゾーンとして生まれ変わって行くとの答弁を得ました。

11月6日～7日、教育民生常任委員会の視察研修。「放課後子どもの居場所づくり事業」について、長野県岡谷市（おかやし）へ。各小学校区ごとに、地域の特色を活かして運営しており、コーディネーターとして地域住民が協力し、礼儀や挨拶、地域の風習などを子どもたちに伝え、地域全体での子育てを実践しています。翌日、「健康寿命延伸都市・松本」をスローガンに掲げる城下町、松本市を訪問。健康づくりへの取り組みについて、お話を伺いました。「命をたいせつにするまちづくり」を実践。健康づくり・危機管理・子育て支援の3Kプランを推進し、できる限り要介護の期間を短くし、元気な老後が送れるよう、心と体の健康づくり、暮らしの環境づくり、健全な財政づくりに取り組んでいるそうです。



岡谷市役所前にて



松本城にて

11月17日～18日、会派「志」で、宮城県南三陸町（みなみさんりくちょう）へ。震災復興状況と、安全・安心なまちづくり条例について視察研修に行きました。まず、大川小学校跡、そしてかつての役所があった場所にある防災対策庁舎跡へ。ここは津波災害の時、最後まで女性職員の方が非難を呼びかけ続けた場所です。そして、南三陸町の庁舎へ。佐藤町長様から、当時の詳しいお話を聞くことができました。ここ100年で4度、大きな津波に全てを奪われたこの町からは、まず命を救おう！という、強い思いが伝わってきます。災害危険区域には、決して住んではいけない、たとえ津波で仕事場が流されても、命を守るのだ…。経験したことの無い者には、とても重たく響いた言葉でした。

翌日は、ふるさとベンチャー創業支援対策について、江戸時代から、江戸市中の3分の2もの米を生産していた米所、宮城県登米市（とめし）へ。農村都市である登米市は、無農薬野菜はもちろん、環境保全米をいち早く取り入れていて、6次産業化と規模拡大、また農業の法人化に力を入れているそうです。助成するだけでなく、融資も行い、信用保証を付けるために、事業計画の立て方を学び、経理や財務などに強い、農業経営者へと育てる養成塾を展開していることに、とても驚きました。



南三陸さんさん商店街にて